

平成29年度 住宅地盤技士（設計施工部門） 正解および解説

問題	正解	解 説
1	1	旧河道
2	3	関東ロームでは80～150%程度で、一般的な沖積粘土より高い。
3	2	液性限界、塑性限界、塑性指数
4	4	細粒分含有率が大きいと可能性小、 F_L 値1以下で可能性大。
5	1	旧版地形図
6	2	計曲線は標高50mごと。
7	2	水抜き孔の有無は、不安定擁壁の大きな要素。
8	3	試験終了の目安。
9	1	ロッドの鉛直性を保持しながら垂直に貫入する。
10	2	沈下量、残留沈下の正確な定量化はできない。
11	4	最大乾燥密度が高いほど最適含水比は低い。
12	2	練積み造擁壁は、露出部の保護、安定している地山、土圧の小さい場合。
13	3	砂混じり砂利や切込み碎石のほうが生じにくい。
14	2	N 値10以上で2m以上連続している。
15	2	鋼管の規定。
16	1	60度は危険側となる。
17	4	土質の確認により設計条件と照査が必要。
18	1	200 m ³ が基準。
19	3	掘進・引き上げ速度の基準。
20	4	腐植土層以浅も考慮必要。
21	2、3	(2) $6 \times 90 \times 1/2 \times 0.28 = 75.6 \text{ kN}$ とも回答できる (3) $2/3 \times 900 \times 0.28 = 168 \text{ kN}$
22	4	吐出時期は地盤や施工状況により異なる。
23	2	芯ずれは改良径の6分の1以内。
24	1	鋼管の肉厚と鋼管半径。
25	2	腐食しろを多くみると安全側の設計となる。
26	4	拡底翼の接合は工場溶接。
27	3	短期許容ねじり強さは鋼管の材質でかわる。
28	3	許容鉛直支持力の2倍以上。
29	3	住品協倫理綱領
30	4	特別教育が必要。